

## 年末たすけあい運動助成事業実施要綱

### (目的)

第1条 この要綱は、社会福祉法人葉山町社会福祉協議会（以下「社協」という。）が、住民等によるたすけあい活動の充実・強化を図るため、年末たすけあい運動配分金を財源に行う年末たすけあい運動助成事業（以下「助成事業」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。

### (助成事業の種類)

第2条 助成事業の種類は小規模助成、一般助成、小地域支えあい助成及び災害ボランティアセンター助成とする。

2 小規模助成は年間40,000円以内かつ単年度の助成とし、毎年申請することができるものとする。

3 一般助成は継続して3年以内かつ年間40,001円以上の助成とする。ただし、社協会長が特に必要と認めた場合は4年目以降でも助成できるものとする。

4 小地域支えあい助成は、社協と連携して実施する個人又は世帯を対象に行う個別支援活動又は見守り活動に対する助成とする。

5 災害ボランティアセンター助成は、社協と連携した災害ボランティアセンターの設置運営及び平常時の活動に対する助成とする。

### (助成金額)

第3条 助成事業に係る助成金の総額は当該年度使途計画の範囲内とする。

2 小規模助成、一般助成及び災害ボランティアセンター助成の助成金の上限額は別紙1に掲げる金額とする。

3 小地域支えあい助成の助成金の上限額は別表1小地域支えあい助成の欄に掲げる事業のうち申請する事業の上限額の合計とする。

### (対象となる事業)

第4条 助成事業の対象となる事業は、次の各号に該当する事業とする。

(1) 葉山町居住者を対象に実施するたすけあいを目的とした別表1に掲げる事業

(2) ふれあいいいきサロン助成事業実施要綱第2条の対象とならない事業

(3) 原則として他からの助成を受けていない事業

### (対象団体)

第5条 助成事業の対象者は次の各号のいずれかに該当する者とする。但し、小地域支えあい助成の対象者は小地域福祉活動推進組織設置圏域を単位に活動する非営利団体又はこれに準ずる活動をする町内会・自治会とする。

(1) 社協に登録している団体

(2) 葉山町に事務所又は施設を置く非営利法人

(3) 葉山町を本拠地として活動する非営利団体

(4) その他、社協会長が必要と認めた団体

(対象となる経費)

第6条 助成事業の対象となる経費は、次の各号に掲げる経費とする。但し、小地域支えあい助成は別表1に掲げる経費とする。

- (1) 給食材料費
- (2) 消耗品費備品費
- (3) 保険料
- (4) 賃借料
- (5) 車両費
- (6) 諸謝金
- (7) 旅費交通費
- (8) 印刷製本費
- (9) 修繕費
- (10) 通信運搬費
- (11) 会議費
- (12) 広報費
- (13) 業務委託費 (50%以内)
- (14) 研修費
- (15) 人件費 (最低賃金を目安としたアルバイト等賃金及び有償支援者への報酬)
- (16) その他、社協会長が適当と認めた経費

2 助成事業の対象とならない経費は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 家賃
- (2) 事務所や施設の光熱水費
- (3) 他の団体や個人への給付・助成・寄付
- (4) 所属する組織等に支払う会費
- (5) 会員や利用者等の慶弔費
- (6) 社会福祉法人等が実施する事業のうち、国及び地方自治体が定める事業で、利用者負担金、介護報酬、委託金又は補助金等により支払うことのできる経費
- (7) その他、社協会長が不適切と認めた経費

(申請)

第7条 助成金を申請しようとする者は次の各号に掲げる書類により、法人格のない団体にあつては会則等を添付して社協会長あてに申請するものとする。

- (1) 小規模助成及び一般助成は「年末たすけあい運動助成事業(小規模助成・一般助成)申請書」(第1号様式)及び暴力団排除に関する誓約書(第2号様式)、但し、一般助成で複数年度にわたる申請を行う場合は前記の書類に加え「一般助成計画書」(第3号様式)

(2) 小地域支えあい助成は「年末助け合い運動助成事業小地域支えあい助成申請書」(第4号様式)

2 一団体が同一年度内に申請できる事業は原則として1事業とする。但し、小地域支えあい助成を申請した団体は、同一年度内の事業に係る小規模助成又は一般助成を申請することができるものとする。

3 申請は、小規模助成、小地域支えあい助成及び災害ボランティアセンター助成は申請事業実施年度の社協が指定する期間、一般助成は申請事業実施前年度の社協が指定する期間とする。

4 各経費の申請額は1,000円単位とし、1,000円未満の金額は切り捨てて申請するものとする。

(審査)

第8条 小規模助成、災害ボランティアセンター助成又は小地域支えあい助成の申請があったときは、社協会長は書類による審査を行い、審査結果を「年末たすけあい運動財源活用委員会」(以下、「委員会」という。)に報告するものとする。

2 一般助成の申請があったときは、委員会設置要綱に基づき、委員会による審査を行うものとする。

(決定)

第9条 社協会長は、申請のあった事業についての助成の可否を決定し、「年末たすけあい運動助成事業助成金交付決定(却下)通知書」(第6号様式)により申請者に通知するものとする。

2 社協会長は前項の申請のうち一般助成の申請があったときは、公開審査を行い委員会の意見を聴いたうえで助成の可否を決定するものとする。

3 一般助成において、2年目又は3年目の申請があったときは、委員会により事業の実施状況等を評価した上で助成の可否を決定するものとする。

(交付)

第10条 前条により助成金の交付の決定を受けた者は「年末たすけあい運動助成事業助成金請求書」(第7号様式)により社協会長に請求するものとする。

2 社協会長は前項の請求を受けたときは速やかに助成金を支払うものとする。

(変更の届け)

第11条 助成金の交付を受けた者(以下、「助成対象者」という。)は、第7条の申請書類の記載内容のうち、団体名、代表者氏名、住所、電話番号に変更があった場合は、「年末たすけあい運動助成事業変更届」(第8号様式)により、社協会長に届け出るものとする。

(書類の整備)

第12条 助成対象者は、助成金に係る帳簿を備え、収支及びその他について明確にしておかなければならない。

- 2 助成対象者は前項の帳簿を、事業終了後5年間保存しなければならない。
- 3 社協会長は、必要と認めるときは前項の帳簿等を調査することができるものとする。  
(報告)

第13条 助成対象者は、当該年度の翌年度の4月30日までに、「年末たすけあい運動助成事業(小地域助成・一般助成)報告書」(第8号様式)、「年末たすけあい運動助成事業小地域支えあい助成報告書」(第10号様式)又は「年末たすけあい助成災害ボランティア助成報告書」(第11号様式)に収支決算報告に係る本助成金を充てた経費の該当金額の領収証又は領収証の写しを添付し、社協会長あてに活動実績及び収支決算を報告するものとする。

(報告会)

第14条 社協会長は、一般助成による事業の成果及び課題を把握するため、審査会及び関係者に対する年末たすけあい運動助成事業一般助成活動報告会(以下「報告会」という。)を開催するものとする。

- 2 一般助成の助成対象者は、助成事業による事業が終了した翌年度に実施する報告会で事業の結果について報告を行うものとする。

(事業の変更及び廃止)

第15条 助成事業による助成を受けた事業を変更又は廃止しようとするときは、社協会長の承認を得なければならない。

(交付の取消し又は返還)

第16条 社協会長は、次の号のいずれかに該当したときは、助成金の交付を取消し又はすでに交付した助成金の全部又は一部を返還させることができるものとする。

- (1) 本要綱に違反したとき
  - (2) 提出書類に虚偽の記載をしたとき
  - (3) 活動の実施方法又は助成金の使途が不適切と認められたとき
  - (4) 正当な理由なく、活動の全部又は一部を行わなかったとき
- 2 決算報告において助成金の割合が決算総額の70%を超えた場合、超過した割合に相当する金額を返還するものとする。但し、災害や事故等やむを得ない理由がある場合は返還を免除することができるものとする。
  - 3 助成金に残額が生じた場合は、「年末たすけあい運動助成事業返還届出書」(第12号様式)により返還額を届け出たうえで、助成金の交付済み額を決算収入総額で除して得た数に執行残額を乗じた金額の千円未満を切り捨てた額を返還するものとする。

(委任)

第17条 この要綱に定めるものの他、必要な事項は社協会長が別に定めるものとする。

## 附 則

この要綱は、平成6年4月1日から施行し、平成6年度助成金から適用する。

附 則

この要綱は、平成16年11月24日から施行し、平成16年度助成金から適用する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度助成金から適用する。

附 則

この要綱は、平成24年4月19日から施行し、平成24年度助成金から適用する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度助成金から適用する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成28年8月17日から施行する。

(経過措置)

第2条第2項、第2条第4項及び第2条第5項の規定は平成29年4月1日から適用する。

2 改正前の要綱により決定した助成金の取り扱いは、なお従前の例によるものとする。

附 則

この要綱は、平成29年12月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成30年8月1日から施行する。

(経過措置)

第2条第2項、第2条第4項及び第2条第5項の規定は平成31年4月1日から適用する。

2 改正前の要綱により決定した助成金の取り扱いは、なお従前の例によるものとする。

年末たすけあい運動助成事業対象事業一覧

別表1 (第3条関係)

事業内容		上限額	説明	
孤立防止の事業	情報バリアフリー	小規模助成は、 総事業費の70% 又は40,000円の いずれか低い方 の額	コミュニケーションの支援や困りごとを抱える人に福祉制度や活動の情報を届ける活動	
	交通バリアフリー		コミュニティバスの運行や送迎サービス、介助ボランティアの養成や活動など	
	人と人の関わりづくり		生活の孤立を解消し予防するために、近隣をはじめ地域の方々とのかわりを構築するための活動。 (葉山町生きがいミニデイサービス事業・ふれあいいきいきサロン対象外の事業に限る)	
	就労・就学支援		就労や就学の支援	
支えあいの事業	金品による支援	一般助成は、 40,001円以上で 総事業費の70% 又は400,000円 のいずれか低い 方の額	金品による生活支援	
	家事等支援		ボランティア等による家事支援	
介護予防	介護予防支援		介護予防を目的にした活動 (葉山町生きがいミニデイサービス事業・ふれあいいきいきサロン対象外の事業に限る)	
ネットワーク	ネットワーク形成		社会福祉を目的とする活動を行う団体のネットワークづくりを目的とした活動	
ニーズ発見	ニーズ発見		SOSを出さない人や出せない人を発見し孤立防止や支援につなげる活動	
福祉教育	福祉教育		社会福祉に関する教育や啓発の事業	
当事者活動及び当事者活動支援	当事者活動及び当事者活動支援		生きにくさや生活上の悩みを抱える当事者団体が行う活動や当事者活動を支援する活動	
災害ボランティアセンター助成			100,000円	社協と連携して災害ボランティアセンターの設置運営及び平常時に実施する活動

小地域支えあい助成	ケース検討会	12,000 円	1 回 1,000 円以内
	通信運搬費	70,000 円	団体が所有する電話機インターネット等の通信費に限る。
	I T 機器・耐久品購入費	200,000 円	キャビネットや I T 機器購入費用 初回の申請年度から起算して 5 年間の合計額（6 年目から 5 年間新たに 20 万円の申請が可能、以下同じ）
	消耗品費	10,000 円	ネームプレート、ケースファイルなど
	保険料	15,000 円	ボランティア保険など
	会議費	5,000 円	企画会議などの資料・茶代（本事業に関係する会議に限る。）
	広報費	10,000 円	チラシやリーフレット等の作成費
	研修費	30,000 円	コーディネーターを対象とした研修会や有償、無償の担い手を対象とした研修会、連絡会、交流会